



た。

8月に模試受験、その結果は、9月になってから届き、私は既に海外の家に戻り10年生になっていました。

理科社会をやっていなかったのだから結果はE判定で家族も私も驚きませんでした。

ちなみにこの模試は、都立高校全体向けの模試で日比谷のように独自問題を一部差し替えている都立高校向けには、難易度の高い模試が別にあるそうです。つまり、8月の終わりの私が、5教科総合で、どれくらいの立ち位置だったかわかるとおもいます。

それでも特に日比谷志望をやめようとは思わず(というか日本にいなかったため事の重大さに気付いていなかった)インターの勉強が大変すぎて「本当に受験するの？」というくらい、日本の問題集をやっていませんでした。それ以上に日本語に触れていませんでした。

おまけに私は中3の日本の教科書を1冊も持っていませんでした。これは、両親が前年に大使館に教科書申請をしなかったためです。両親は私が海外で高校を卒業すると思っていたので申請しませんでした。

E判定でも日比谷受験を諦めない私に焦った母が、日本に教科書をお願いして、入手したのは11月でした。公民どころか徳川家康も知りませんでした。

両親は「今から無理して理科社会の受験をしなくても」と言っていました。私は冷静に考えて、受験しようとしている帰国子女枠の学校はどれも附属校中学から上がってくる生徒がいて、全員一斉スタートラインに立つ日比谷高校は魅力的だと思いました。このことが私を大きく突き動かしていたのかもしれない。

入試対策という点では、12月に帰国してから本格的に取り組んだと言ってよいかもしれません。帰国生用の直前講習会に通いました。

国語が最後まで苦戦し、年末から過去問の記述練習をして添削してもらいました。(国語は、日比谷生になった今も大きな課題です。)

理科社会は、ひたすら教科書を読み、私立高校受験日も試験休みに理科社会の教科書を開いて読んでいました。

合格発表は、受験した学校の中では唯一自分で発表を見に行きました。理科社会に不安を抱えていたので、合格している確信もなく番号を見つけた時それでも信じられないくらいでした。

インター生で塾のない国からの自習でも、ただそれだけが理由で諦めないでください。日比谷生として過ごしている今、自分の選択は間違っていなかったと思っています。

日比谷は、勉強します。大変です。でも、それ以上に楽しいです。学問への探究心を満たしてくれる先生方や仲間たちに恵まれています。先生方は何を質問しに行っても何でも丁寧に答えてくださいます。同級生もわからないところを教えてくれたり、Encyclopedia並み物知りクラスメートやuniqueな人が沢山いるのも日比谷の面白いところです。

日本語での勉強は大変です。未だに日本語授業のヒヤリングが完璧に出来ませんが、同級生の助けを借りて頑張っています。

インター生で日比谷に興味を持っている人は挑戦する価値があります。私の自慢は日比谷の先輩、同級生たちです。高校時代に素晴らしい仲間に出会ったと思っています。日本に帰国するかしないか、それをも迷っていた私が日比谷の一員になり、すっかり日本の高校生になりました。

帰国子女枠のない学校は帰国フレンドリーなのか？本当に入っていけるのか？と不安を感じている人も多いと思います。私も実際そう思っていました。That turned out to be wrong! 日比谷には、いろいろな人がいて自分が求めれば、どんな人でも受け入れてくれる環境があります。

海外の生活が懐かしくなることはありますが、日比谷が私の居場所となり、帰る場所となったことは私の人生で大きな意味を持つことだと思っています。

少しでも日比谷に興味を持っているインター生や海外で就学している皆様、一度日比谷に来て日比谷を体感してください。『私の母校』となった日比谷で皆様をお待ちしています。

(日比谷高2年 MS)